

来賓祝辞

埼玉県知事 上田清司

ご紹介をいただきました埼玉県知事の上田清司でございます。

本日は、平成18年度の全国医師会勤務医部会連絡協議会が相川宗一さいたま市市長を初め多くの皆様方をお迎えし、このように盛大に開催されますことを、706万県民を代表して心から歓迎を申し上げます。

また、唐澤日本医師会長、吉原埼玉県医師会長をはじめ、医師会の皆様方には大変国民の生命と健康を守るために日夜ご努力を賜っておりますことを、心から敬意と感謝を申し上げます。

27回目を迎えるというこの会議の重み深さというものを、私は、昨日この中の小論文の大半を読ませていただきました。大変重い、そして切ない課題というのがたくさんあることを改めて知りました。

今般の医療制度改悪という、こういう、ある意味では黒船来航以来と言っても過言ではない厳しい環境が、医師並びに患者にいろんな形で重さが過重に伝わってきております。

先ほど吉原会長が言われましたように、世界の長寿と健康を維持している我が国の医療保険制度の骨格をいじくることが本当に制度の改革なのか、このように私自身は思っております。いろんな枝葉を刈り取ったり、あるいは整備したりすることは大事なことだというふうに思いますが、4,500万人もいる医療保険を持っていないアメリカの医療制度のどこがいいのかとか、あるいは乳幼児死亡率が日本の何十倍も高いアメリカのどこがいいのか、ほとんどアメリカの破産は病院に入院したために起こっているという、そういう実態をやはり私たち国民も知らなければいけませんし、その中で世界との比較の中で日本の医療制度を考えるべきだと、私はそんなふうに考えるところでございます。



いつも吉原会長と一緒にあって憤慨しているところではありますが、ともあれ、きょうの会議がどんなに密度の高い会議であるかということもよくわかりました。本当にありがたいなというふうに思っております。

埼玉県では、今患者さんのための3つの宣言というものを実施しております。これは患者さんへの十分な説明、患者さんへの情報開示、セカンド・オピニオンへの協力を医療機関自ら宣言し実践する動きであります。埼玉県医師会の皆様方と協力しながら、現在過半数の病院がこの宣言をしているところでございます。

また、本県ではことしの7月に災害派遣医療チーム、埼玉DMAT(ディーマット)を発足させていただきました。埼玉県は、比較的日本では最少に近いぐらい災害の少ない県であります。それでもまさかのときのための、こうした埼玉DMATを発足させ、医師会の皆様方のお力の中で、そういう緊急体制もつくらせていただいております。

今、医師不足あるいは医師の偏在が言われておりますし、勤務医の減少という大きな課題がのしかかってきておりますが、まさに、こうした課題に皆様方のきょうの会議を通じて、何らかの形で解消すべき方向性というものが出てくるのではないかとこのように思っております。

埼玉県は706万人という人口を抱えておりますので、1人当たりの医師の数は一番少ないという、そういう計算になってしまいます。多分に首都圏の病院や開業医の方々に通う方々もおられる、そうしたこともあるのかもしれませんが。

ただ反面、埼玉県は1人当たりの医療費が17万円ということで日本一少ないという状態があります。それは埼玉県の平均年齢が若いからだろうと、こういうご意見もあります。沖縄県が実は一番若く26万円かかっております。そういう意味では、ただ若いということではなくて、いろいろな制度の充実、あるいはその地域社会のあり方、こういったことも問われているのかなというふうに思っております。

いずれにしましても、この会議を契機に医師会の先生方、勤務医の先生方の連携を一層強め、今日的な課題に対応できるような仕組みをぜひご提示いただき、私たち行政の側もそうしたご提案、ご提議に真剣に取り組んで国民の、県民の健康と命を守るために一生懸命頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます、ご挨拶に替えます。

本日は、ありがとうございます。

来賓祝辞

さいたま市長 相川 宗一

ご紹介を賜りました、さいたま市長の相川宗一です。

本日ここに、平成 18 年度全国医師会勤務医部会連絡協議会が、ご関係の皆様多数ご参加のもと、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、全国各地からここさいたま市にお越しになられましたことを、心より歓迎を申し上げます。

さて、皆様方には日頃より、医師の資質の向上や医療提供体制の充実・強化に向け、精力的かつ献身的にご尽力をいただいておりますことに敬意を表しますとともに、衷心よりお礼を申し上げたいと存じます。

さて、近年医療法の改正や診療報酬の改定を初め、介護保険法の改正、障害者自立支援法の制定、国民健康保険法の改正などにより、保健・医療・福祉行政をめぐって目まぐるしい変化がありました。特に、高齢化の急激な進行等に対処するため、国民健康保険法並びに介護保険法の改正では、内臓脂肪症候群、いわゆるメタボリックシンドロームの予防、改善、介護予防に重点を置いた施策を展開することとされたところであります。

いずれにいたしましても、先ほど来、吉原会長、また上田知事が申し上げておりますように、天下に冠たるこの日本の医療制度が、何とか水準を維持できるといふことの保障がなされなければならないものというふうを考えているところであります。

本市は、現在比較的若い世代が多い自治体ですが、今後の 10 年間を見ても、高齢化率の加速は全国平均を大きく上回ると予想されておまして、医師会のご協力のもと、保健、医療並びに介護保険事業の一層の充実を図ってまいりたいと考えております。

ところで、ここさいたま市は平成 13 年 5 月に浦和、大宮、与野、3 つの市の合併により誕生し、その翌年、政令指定都市に移行、さらに昨年は岩槻市との合併をいたしまして、現在人口 119 万人を擁する全国 9 番目の大都市となりました。

また、本市は県庁や国の省庁等の機関が集積をす



る行政の中心地であるとともに、数々の商業地を有し、新幹線 5 路線が結節をするなど、東日本の交流拠点都市としての高いポテンシャルに加え、人形、盆栽、サッカーなど、本市固有の多彩な文化が息づく魅力のある都市（まち）であります。

本市を空から眺めますと、西に秋ヶ瀬公園、バラで知られる与野公園、北に大宮公園、氷川神社、東に岩槻公園を見ることができ、さらに中央に位置する約 1,260 ヘクタールの見沼田んぼは、まさに潤いのあるオアシスでありまして、この保全、活用、創造を先導するセントラルパークの整備をするため、大宮区に「合併記念見沼公園」の整備を進めています。

さらに現在、新たに 340 床の病院を市が整備をし、その運営を市内の 4 医師会で運営をしていただく地域医療支援病院型の病院建設に取り組んでいるところであります。

皆様方には、ぜひこうした機会に豊かな自然と活力のあふれるさいたま市を知っていただき、お時間の許す限りゆっくりとお過ごしをいただければ幸いです。

言葉を結ぶに当たりまして、ご参会の皆さまのご健勝でのご活躍と全国医師会勤務医部会連絡協議会の今後ますますのご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉にさせていただきます。

本日は、おめでとうございます。

挨拶

日本医師会副会長 宝住 与一

皆さん、こんにちは。ご紹介をいただきました日本医師会副会長の宝住です。

きょうは、全国医師会勤務医部会連絡協議会にご出席いただき、ありがとうございます。

今回のメインテーマである「勤務医のアンガージュマンを求める」は、非常に時宜を得たテーマだと思いますが、私は、特に勤務医の医師会参加を求めたいと思います。

というのは、今全国で医師の6割は医師会に入っております。そのうちの半数近くは勤務医の先生なのですが、医師会は開業医の団体とみられています。医師の代表と認められるためには、どうしても勤務医の先生方の活動が活発にならないとだめではないかと思っております。

前々から勤務医不足、過重労働ということが話題になっていきましたが、新医師臨床研修制度が必修化されてから特に顕在化してきています。今、巷間いろいろ言われていますが、この医師不足解消のために、政治家をはじめ多くの方がいろいろなことを言われますが、実際に医師会にはそれを是正するだけの力は、今のところありません。

先ほど吉原会長が、介護難民のことや療養病床の不足の問題を言われましたが、中医協では、介護難民が出てどうにかなったらそれは医師会がやるべきだとか、療養病床は医者がやるべきだとか、患者さんから言われているわけですね。今の状態では我々にそんな力がないのでとても十分できないことがわかっていないから、そんなことを言われるのだと思いますので、我々は皆さん方と力を結集して、支払者側、患者さん団体も味方にして、事に当たらなければ今の医療状況は解決しないと思っております。

きょうは、ぜひ、いろいろなことを議論していただきたいと思います。その成果を踏まえて、日本医師会は必ずや医師不足解消のきっかけをつくるように活動をしていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしく願いいたしまして、私の挨拶といたします。

